

やなせがわ

広報



(サザンカ)
第 34 号
発行
2011 年 12 月 11 日
柳瀬川町内会
広報部

町内会 秋の親睦旅行に参加して(1)

八班・田村友一

11月20日(日)、一泊2日の予定で参加者16名は旅館差し回しのバスで午前9時に一路千葉県銚子市の犬吠埼を目指し、嬉々として町内会館前を出発した。

バスがユリノキ通りの坂を登り切った辺りでハプニング発生、突然大きな声で「シマッタ!」、どうしたと聞かれ、小声で「財布を忘れた」と云う。一同、一瞬唖然として顔を見合わせ大笑い。幸いにして隣に大金持ちの人がいて金二万五千両を借り受けどうやら一安心。誰か知らないけど、とんだ粗忽者がいたものである。

さて、バスは和光北の外環に入り首都高を通ってやがて千葉県へと進む。

千葉といえはご存じ海は近いし、小さな山と谷間の多いところ

ろだがその谷間たにまには以前、田畑であったろうと思われる荒地が多く見られる。これは千葉県だけでなく全国的な現象であるが日本が高度成長時の米あまりに時に減反政策という悪政がもたらした結果であり田畑だけでなく農村の美しい風景まで失ってしまった。しまい農業の衰退を招いた。

その昔、先人達が汗水流して一枚一枚精魂込めて造ったことを思うと少年時代田畑造りを目にした私から見れば「もったいない」と先人達の嘆き声が聞こえるように胸が痛む。

そうこうしている間にバスは本日最初の見学地銚子のヒゲタ醤油の工場に到着、早速工場内を案内される。醤油の香りに誘われて進むとふと目についたのが私達に馴染みの深い例のヒゲタ醤油の看板である。看板の商標にはヒゲの左上に「上」が書



かれています。この「上」の字はなんなのか不思議に思っていたが、会社沿革映画によると江戸末期、

物価高に悩んだ幕府は市場に値下げ令を発した。しかし、ヒゲタを含む銚子と野田の7銘柄は「最上醤油」の名称とともに従来価格で販売することが許された。そのお墨付きがマーク左上の「上」であり品質を約束する目印として今も受け継がれているとのこと。

ちなみに創業は大坂夏の陣の翌年1616年(元和2年)とのこと。

それでは次の予定地犬吠埼を紹介しよう。その昔、源の義経が実の兄頼朝に追われてその地を去る時に愛犬を残して去らざるをえなかった。その犬が主人をしたって幾日も幾日も吠え続け最後に力尽き化身して岩になり地名が犬吠埼となったという伝説である。可愛い弟を死に追いつめるなんて如何に戦国時代とはいえ何とも悲しい話で涙を誘う。

バスは犬吠埼を後にして本日の目的地銚子のホテル磯屋に着。早速温泉につかり旅の疲れを流す。やがて夕食。一行は宴

会場へと足を運ぶ。大広間の真ん中に、こじんまりと16人分のお膳が並ぶえらく広い会場である。

乾杯の音頭で宴が始まる。しばらく海の幸を味わい、杯を重ねてカラオケが始まる。小島さんの素人離れた司会でおおいに盛り上がり楽しいひと時であった。このカラオケでのことだが一つ気になることがあった。ある人の番の時、接待係の若い娘(年の頃なら22〜3)が、唄っているその人をジッと見つめているではないか。その娘が何を思っているのかは分からないが、おそらく“素敵なおじ様? もう少し若かったらナァ”と胸を痛めたに違いない。だとすると若い娘心をくすぐって罪なことをしたかなうとそいつは真面目な顔をして云うんだよナァ。「バツカだなあお前は、思い込みもいいかげんにしろよ!!!」

宴会も終わり一行は上機嫌で一旦は部屋へ帰ったものの興奮冷めやらず有志数人はカラオケバーへと足を運び大いに楽しんで

だ。



カラオケから帰ったのが11時半頃すでに他の3人は夢の中、そっと布団にもぐり込む。しばらくして、どたん、ばたんと音がするではないか。部屋は真っ暗、どうやら寝返りを打っているらしい。すると何か話しかけているようだ。寝言と寝返りである。この状態が半端じゃない。しばらく寝返りが続き身の危険を感じ布団をかぶって寝ようとしたがなかなか眠れない。寝言と寝返りが益々ひどくなるではないか。小さい体を更に小さく

してもぐり込み何とか眠ることができたが明け方トイレに行つた時、電気を点けてみて驚いた。なんと、4人部屋の窓側に寝ていた巨体が2人目の私の処に胴体、3人目の足元に頭を、と何と3メートル以上も移動したことになる。本人はなお熟睡中であったが揺り起こしてご自分の布団へお戻りになっていただいた。

「その御仁に告ぐ! 一晚中身の危険に晒された人がいたことを忘れないで欲しい」「エッ・誰だって。ほらナァ、すぐ聞きたがるアンタの悪い癖だよ。本人の名誉のため云わないよ!」

翌朝何事も無かったように朝風呂へ。窓の外は海、「ワー海ダァー」と思わず叫ぶ。犬吠埼である。真つ白い灯台も見える。灯台といえれば昨日、九十九段の螺旋階段を上まで登ったな、おかげで今日は太ももが痛いよ。朝食を済ませ午前9時成田山へと向かった。途中酒蔵を見学、朝酒をごちそうになり成田山へは12時近かった。

昼食を済ませ成田山をお参り

して裏山を散策、その広大な敷地と美しさには目を見張るものがある。中でもイチヨウの木が群生している所がありその落葉のじゅうたんのよう。その美しさは今回一番と言つていいほど見応えがあった。



「成田山にて」

さてそろそろ帰りの時刻となった。成田山を後にしてバスは早くも首都高に入りスカイツリーを眺めながら一路柳瀬川を目指し16時30分無事帰着した。お疲れ様でした。イヤー旅つていろんなことがあるネ・・・楽しかった。お・わ・り・

町内会 秋の親睦旅行に参加して(2)

紅葉のシーズンとなり、今では恒例となった町内会秋の旅行に参加したので、道中記を書いてみます。(編集子)

11月20日1泊で千葉県銚子市犬吠埼の温泉に出発した。

前日の土砂降りの雨も、普段の行いが良い(?)と思われる面々のせい、薄曇りであるが気温も暖かく、最高の旅行日和となった。高速道路に入ってから右手に今話題のスカイツリーを眺め、車は順調に千葉県に入っていた。

スカイツリーを見るのも初めて、湾岸線を走るのも久しぶりの人がいたら、刻々変わっていく東京や近郊の景色もまた見ものだと思う。

11月とはいえ千葉の木々はまだ色付きがなく、ところどころに紅葉らしきものが点在する程度であり、それがまた見る人

にとつては良いと感じるかもしれない。

途中休憩と昼食をとった後、本日行程の主目的のヒゲタ醤油(株)へ工場見学に入った。ところが残念なことに本日は日曜日とあつて製造現場には入れず講堂において15分間位、会社の概要を映画で観て見本の醤油(100mmリットル)を土産に、多少不満も残るが目的地に向かうことになった。

目的地である銚子には2時頃に着いたが時間が早すぎてホテルにチェックインできずすぐ眼前にある犬吠埼灯台を見学することとなった。

灯台は狭い階段を100段ほど登るため我々老齢には一仕事である。しかし、みんな頑張つて展望台まで登り切った。

展望台では風が強く飛ばされるようであったが水平線が丸く見えることを確認し降りる途中に展示してある灯台のレンズの構造等を見ながら感激して降りてきた。

尚、10月に町会の映画会で「喜びも悲しみも幾歳月」を上

犬吠埼灯台



について記す。

(ウイキペディアの文章から抜粋)

犬吠埼(いぬぼうさき)の地名の由来

犬吠埼という地名には諸説があるが、中でもよく知られるものが義経の愛犬「若丸」が岬に置き去りにされ、主人を慕う余り、七日七晩鳴き続けたことから犬吠(犬が吠く)と名付けられたという説。

他にはかつて一帯にはアシカ(ニホンアシカ)が繁殖しており(近隣には海鹿島があり、明治時代には二、三百頭のアシカが生息していたと伝えられる)、その鳴き声が犬に似ていたことから、犬吠埼と名付けられたという説もある。

岬と崎・埼・碕

埼という字が最後に付く岬は珍しい。これは埼という地名が土偏の成り立ちのごとく、草木が生えない荒地が突出している地形を表すからである。一方、岬・崎は山がそのまま海に迫り

上がった地形を指し、石偏の碕は、石がゴロゴロとしている海岸が突き出た地形を表す、といわれている。

他に土偏の碕が用いられる岬では和歌山県の日ノ御崎などがあり、山偏の岬に静岡県の石廊崎や城之崎がある。また石偏の碕が付く岬は島根県の日御碕が著名である。

おっと、話は飛んだが旅行へ戻す。

3時になったのでホテルへ入館。一風呂浴びに2階の風呂場へ、眺望もよく海岸も窓の下にあり岩へ打ち付ける波を見ながらの入浴で幸せ気分を味わう。

入浴後は本日のメインイベント、夜の宴会では飲みや歌えやで盛り上がり二次会、三次会まで盛り上がった人もいた。(私?)

翌朝は日の出が拝めるとの期待を持って目覚めたが残念ながら雲が邪魔をして雲の隙間から海を照らす筋状の光を拝むこととなった。海に映える光も山と違い、これまたなかなか良いも

のである。

朝食は昨夜の疲れも取れ、不思議と普段と違う雰囲気で見食べられた人もいたことと思う。

いよいよ帰りの出発の時間である。帰りは魚市場で買い物をして次の目的地東薫酒造所へ寄る。工場見学を行い飲める人は試飲を行い満足し最後の成田山へ向かう。

成田山では門前の食堂で昼食をとり参詣に向かう。参詣とはいえ山門入ってから本殿までの階段がこれまた急階段で老人や身体不自由者は上まで行けず下で手を合わすだけと思う。車椅子の人が帰って行ったのも見られた。エスカレーターかエレ

ベーターでも有ればと思う。だが当町会はみなさん頑健そのもの、どんな階段も物ともせず目的を達成した。

本堂では護摩壇まで入ることができ豪華さに感動する。

成田山の山内面積は広くお参りを終わった人が見物でいろいろ観てきたと思うが山内の景色や紅葉につられ大本堂裏の奥之院、成田山公園までも行ったのか出発時間に間に合わなかった人が多かった。山内のモミジは美しく感動して降りてきた人もいた。

あとは帰宅のみ、バスが出発したらすぐみんな眠り始めその姿は昨日、今日の思い出をかみしめているかのよう見えた。

バスは順調に走り、4時半まえに会館前に到着した。みなさんご苦労様でした。

来年はますます多くの参加者があることを願って秋季旅行の思い出として書いてみました。



壁のようにそそり立つ階段



今年後半の思い出

柳瀬川町内会・会長 竹前 栄二

卯年の今年は、不安定な政治情勢に続いて災害も多発しました。残念ながら卯年は歴史的な大災害や事故の当たり年のようです。

幕末には江戸の町を襲った安政大地震、日本の火山災害で最大規模の浅間山大噴火、明治以降も濃尾大地震、丹後地震、昭和には伊豆大島の三原山が山容を変える大爆発を起こしました。雪害も甚大で、サンパチ豪雪は記憶に新しいところです。

今年三月十一日の「東日本大震災」による原発、津波発生による三重苦の大災害、九月には台風による和歌山方面の災害と、歴史に残る大きな出来事があった年でした。

そうした中、町内会活動を振り返りますと、日帰り旅行を除けばほぼ計画通り行事を行う事が

が出来ました。特に印象として残ったのは、民踊流し（7月23日）、納涼大会（8月27日）、体育祭（10月9日）です。



民謡流し

民踊流しは三十七町内会あるなかで四分の一が参加。八百世帯前後と大きな規模の町内会ばかりの中、我が町内会は八分の

一の百世帯の規模、参加人員を集めるのにも大変な苦勞をしましたが、子ども会等の声掛けで外部からの参加を含め漸く前年と同人数を確保。

また「レスト・ヴィラ」がホームで行う夏祭りで踊りたいと練習に参加し和やかな雰囲気での練習が出来ました。本番では出場メンバーは皆光り輝いていました。



納涼大会

納涼大会は四年に一度の防災訓練と重なり早朝から訓練に参

加、終了後は昼食もそこそこに準備にはいり「バーベキュー、焼きそば、会場設営、接待と大変な働きをしてくれました。招待客も居心地がいいせいか最後までお付き合いして戴いたお客様もあり、参加人員も約八十名と大盛況でした。



防災訓練で簡易トイレを体験しちゃいました！



十月に行われた体育祭、参加人員は約三十名の為、町内対抗種目の「むかでリレー」「スエーデンリレー」「男女小学生リレー」等をメンバー不足で泣く泣く棄権しましたが、個人種目は皆さん積極的に出場し楽しんで頂いたようです。

終了後は「ご苦労さん会」で憂さ晴らしをしました。

各行事を行っていくうえで世帯規模が小さい為人員の確保に毎回悩みますが、だからこそきめ細かな対応ができる、家庭的な雰囲気のある町内会だと思っ

ております。

町内会行事、企画、行政との折衝、会議等を行っているところも一年も矢の如く過ぎ去っていきまわろうとしています。来年は「辰年」昇竜の如く町内会、会員の方々が発展していくことを願っております。

今年も皆様方の協力により町内会運営が出来ましたことに感謝いたします。来年もよろしくお願いたします。



(写真・上) 体育祭はご苦労さん会で大盛り上がり

(写真・中右) 民謡流しの練習風景
(写真・中左) レストヴィラの納涼大会に参加

(写真・下) 同じく、レストヴィラのベランダから花火を楽しむ

広報やなせがわ・第34号

編集：柳瀬川町内会 広報部

部長 川口 勲

委員 奥村 隆重

委員 杉原 正規

委員 三井 康継